

Market Flash

発表日: 2020年3月5日(木)

- ・スーパーチューズデー
- ・2月ISM非製造業は複雑怪奇なり

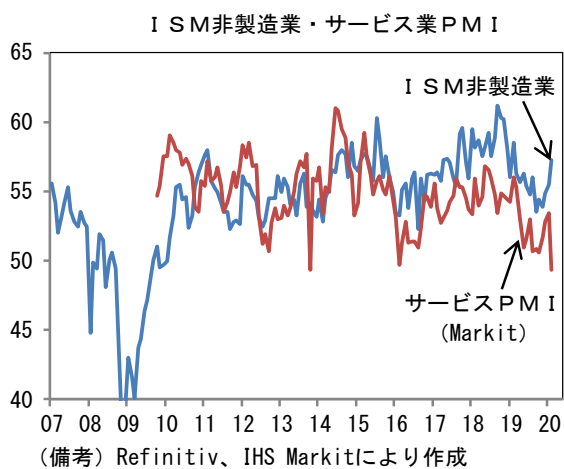
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は24000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは日米金融政策が様子見となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げに続き、更なる利下げを検討するだろう。

< #スーパーチューズデー#サンダースリスク後退#ISM非製造業#米国経済の底堅さ >

- ・3日のスーパーチューズデーは中道派のバイデン氏が躍進。これまで民主党の大統領選候補者争いの先頭を走ってきた左派サンダース氏はカリフォルニア州を制するも、テキサス州は制することができず形成逆転。バイデン氏はスーパーチューズデーにおいて14州のうち10州で勝利。3日時点で代議員獲得数トップに。これは事前予想比でややサプライズ。候補者争い撤退を表明したブティージェッジ氏やその他有力者の支持を直前に取り込んだことが影響したとみられる。
- ・金融市場はバイデン氏躍進と後述のISM非製造業の底堅さを好感して株価上昇。VIX指数が31.99へと低下するなか、3日の急落を取り戻す動き展開。為替は安全資産としてのJPYとEURが売り優勢。商品は原油が小幅ながら下落し、金は小幅上昇。米10年金利は上昇。逃避需要が後退したほか、ハト派のブラード・セントルイス連銀総裁が3月FOMCの追加利下げに消極的な見解を示したことを一部材料視。もっとも2年金利は低下しており、3月FOMCの追加利下げ観測は根強い。新型コロナウイルスはもとより、金融市場の混乱終息に相応の時間を要するとみられることを踏まえると、3月FOMCで追加利下げを見送り、自らリスクアセット急落のトリガーを引いてしまう可能性のある選択肢は取りづらいのではないか。
- ・2月ISM非製造業景況指数は57.3へと1月から1.8pt上昇。市場予想(54.9)に反して改善した。2月時点では、米国内の新型コロナウイルスの感染が限定的だったことから、影響はほとんど見られず、むしろ米国経済の加速が映し出された形だろう。ただし、こうした姿は既発表の2月サービス業PMIの急低下とは対照的で解釈が難しい。ISM非製造業の内訳は事業活動(60.9→57.8)が高水準から僅かに低下した反面、新規受注(56.2→63.1)へと著しく上昇。雇用(53.1→55.6)は7ヶ月ぶり高水準を記録。サプライチェーンや物流網の乱れを一部反映すると考えられる入荷遅延(51.7→52.4)は僅かに上昇した程度であった。その他、ヘッドライン構成項目外では受注残(45.5→53.2)が大きく積み上がり、輸出受注(50.1→55.6)も好調、輸入(55.1→52.6)は予想外に上昇。広範な項目で強さが見られた。2月サービス業PMIと相反す

る姿であるが、このようにほぼ全ての項目が反対を向く場合の原因としては季節調整の相違が考えられる。そうであれば3月は乖離が大幅に縮小するはずである。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。